

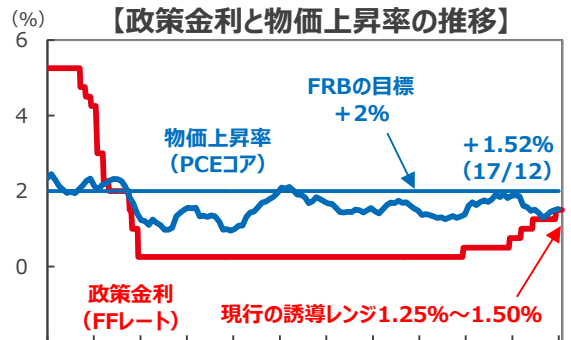
今日のトピック 米国の金融政策は現状維持（2018年1月） 政策金利は据え置き、緩やかな利上げを継続へ

ポイント1 政策金利を据え置き 全会一致の決定

- 1月30日～31日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り、政策金利（FFレート）の誘導レンジを1.25%～1.50%で据え置くことを、全会一致で決定しました。

ポイント2 物価見通しを上方修正 景気の評価は据え置き

- 公表された声明文では、「経済は堅調な速度で成長し、労働市場は引き続き力強さを増した」との評価が維持されました。
- 前回の声明文にあったハリケーンの影響に関する文言は削除されました。「ハリケーンの影響は一過性のものにとどまる」とした前回の見方が、正しかったことを示すものです。
- 物価については、前回の「短期的に米連邦準備制度理事会（FRB）の目標値である+2%を下回って推移する見通し」から「今年は上昇が見込まれる」に上方修正されました。FOMC参加者が、昨年の物価上昇率の鈍化は、携帯電話サービス料金の大幅値下げ等による一時的なものとしていることを示唆するものです。



07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18(年)

(注1) FFレートは2007年1月5日～2018年1月31日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月-2017年12月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2018年	2019年	2020年
GDP成長率 (%)	12月	2.5	2.1	2.0
	9月	2.1	2.0	1.8
失業率 (%)	12月	3.9	3.9	4.0
	9月	4.1	4.1	4.2
物価上昇率 (%)	12月	1.9	2.0	2.0
	9月	1.9	2.0	2.0
FFレート (%)	12月	2.1	2.7	3.1
	9月	2.1	2.7	2.9

(注1) 開催月は直近のFOMCが開催された月。
(注2) FOMCメンバーによる予測の中央値。GDPと物価上昇率は10-12月期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。失業率は10-12月期の平均値。FFレートは各年末時点における誘導レンジの中間値。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 「緩やかなペースでの利上げ」が継続される見通し

- 金融政策の先行きに関しては、「経済および労働市場の情勢は、さらなる漸進的な利上げを正当化する」と述べました。今後も緩やかな利上げが継続される見通しです。なお、次回FOMCからFRB議長がイエレン現議長からパウエル現理事に交代しますが、緩やかな利上げ路線に変更はなさそうです。
- 今回の決定は事前の予想通りでしたが、今年も緩やかに利上げが継続されるとの見方から、31日の米国市場では債券価格が小幅な下落（債券利回りは上昇）となりました。一方、株価は民間集計の雇用統計など、景気の拡大持続を示唆する景気指標により強く反応し、上昇しました。

ここもチェック! 2018年1月29日 好調な米国のGDP成長率（2017年10-12月期速報値） 2018年1月19日 米『ページブック』、賃上げ圧力の高まりを指摘

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。